仏像を楽しく鑑賞しよう

●合掌の意味

インドでは人間の身体を左右に分け、右側を清浄、左側を不浄なものとしている。これは右手＝仏、左手＝人間を指し、これらを合わせることで仏と自分が一体となることを表している！

お寺を参詣した時には、仏像をじっくり鑑賞することも楽しいものです。

仏像の種類としては、**「如来、菩薩、明王、天部、その他」**の５つに大別されます。

仏像の誕生

仏教では初めの頃は礼拝の対象となるものは存在していなかったが、しかし釈迦入滅の後は、その遺骨である仏舎利や、仏舎利の埋納施設である仏塔がしだいに礼拝の対象となっていきます。さらに仏塔の周囲には、釈迦の事跡を示した「仏伝図」が彫刻されるようになり、その中で仏陀の存在は象徴的なもの（仏塔・菩提樹・輪宝・宝座・仏足文など）で表現されるようになった。やがて紀元１世紀頃には、ガンダーラとマトゥラーで具体的な人間の姿をかたどった仏像が誕生します。最初の仏像は仏教の開祖である釈迦の姿を表したもので、「三十二相、八十種好」という特徴があるとされました。この三十二相、八十種好は仏像の基本的形体となり、他の仏像にも適応されていきます。その後、仏教は中国や東南アジアなどに広まりさまざまな種類の仏が生まれました。

「如来」　仏教の悟りを開いた者

「真実から来た者」という意味。数ある尊格のなかで、最高の境地に達した存在で最高の位にあります。

仏教の開祖釈迦が代表的ですが実在した人物が仏像になっているのは、釈迦如来だけでしょうか？実在の人物故に涅槃像などもあるのでしょう。

釈迦如来のほかには大日如来・宝生如来・阿弥陀如来・阿閦如来・不空成就如来の五智如来等があります。また薬師如来は唯一物を持っている如来です。では何を持っているのでしょう？

左手に薬壺（やっこ）持っています。　薬の入った壺ですね。

釈迦如来は成田山では釈迦堂に中尊として奉安されています。印相は触地印です。

成田山の五智如来は平和の大塔五階と三重塔内に奉安されています。

総門二階には大日如来・阿弥陀如来が奉安されています。

大日如来は成田山の大本堂・釈迦堂・の裏仏として又光明堂の中尊としても、奉安されています。

「菩薩」　悟り　を求める者。つまり修行者のこと

「さとりを求める者」という意味。仏陀となることを目標に修行に励んでいる修行者のことをいいます。いわば如来の候補生です。

仏教で釈迦を指す名称（十号）のひとつ。あるいは、大乗仏教における諸仏の尊称

悟りを開く為に修行中の者という意味ですが、釈迦が悟りを開く前の姿がモデルの様ですね。

仏像は如来と菩薩が多いのでこれが分かると、仏像を見るのが楽しくなるでしょう。

では成田山にはどんな菩薩がいるのでしょう。

釈迦堂には千手観音菩薩・普賢菩薩・文殊菩薩・弥勒菩薩が奉安されています。

総門二階には千手観音菩薩・虚空蔵菩薩・文殊菩薩・普賢菩薩・勢至菩薩　奉安されています。

薬師堂には日光菩薩・月光菩薩（現在は平和大塔一階に仮奉安されています。）

大本堂の裏仏として、虚空蔵菩薩が奉安されています。

「明王」　大日如来が衆生を教化する際に，通常の姿のままでは教化できないので忿怒相をもって現れたもの如来の教えに従わない救いがたい人間や生き物を調伏、救済するために如来の命を受けて怒りの形相（忿怒相）になって現れた仏です。

五大明王とは　不動明王・　軍荼利明王（ぐんだりみょうおう）・大威徳明王（だいいとくみょうおう）
金剛夜叉明王（こんごうやしゃみょうおう）・隆三世明王（ごうざんぜみょうおう）です。

「明王」は忿怒の形相をしています。即ち怒った顔ですね。髪は辮髪（べんぱつ）や焔髪（えんぱつ）、手には降伏用の宝剣などの持物を持っています。

代表的なのは不動明王ですが、目は天地眼をし、牙を出し、右手には剣を左手には五色の羂索を持ち、光背は火焔です。この他に愛染明王が光明堂に奉安されています。

これらの明王は密教が作り出した仏で簡単には救えない者を力ずくででも仏法に導く仏なのです。

忿怒の形相をしていないが、孔雀明王があります。

「天部」　仏教の守護神
仏教に帰依した神々で、仏教を信ずる心を妨げる外敵から人々を護る、いわば仏法のボディーガードなどの役割があります。

仏教が成立する前から信仰されていたバラモン教など古代インドの神々が仏教に取り込まれた。

天部では弁財天（女性）のように性別がはっきりしているものがある。一番知られているのが「七福神」などに出てくる毘沙門天です。

四天王とは増長天・持国天・多聞天・広目天です。　注＝多聞天は独尊では毘沙門天と言う。

弁財天（弁財天）・歓喜天・大黒天・吉祥天・韋駄天・帝釈天・摩利支天・梵天などがあります。

「その他の諸尊」

その他の仏像としては、神仏習合による垂迹神や釈迦の高弟の羅漢、聖徳太子や弘法大師、日蓮などの祖師や高僧などがあります。

「羅漢」

仏教の修業を完成して阿羅漢果（悟りの境地）に達した人のことを阿羅漢といい、羅漢はその略称です。釈迦の教えを護持する尊者を指します。十六羅漢、十八羅漢、五百羅漢などの種類があります。[十六羅漢（三重塔）と五百羅漢（釈迦堂）に彫刻があります]

「祖師像」

インドや中国、日本の祖師や高僧のことです。たとえば維摩居士、無著、世親、達磨大師、鑑真和上、慈恩大師、弘法大師、空也上人、重源上人、日蓮聖人などさまざまな種類があります。

中世以降、禅宗では中国や日本の祖師像が数多く造られ、こうした肖像のことを「頂相」（ちんぞう／ちんそう／ちょうそう）といいます。

「神像」

奈良時代以降に広まった神仏習合思想により、日本古来の神々を表した神像や、本地垂迹説から生まれた権現像などが造られるようになりました。

初期の神像は仏教尊像の現存最古の作例としては９世紀後半の東寺（教王護国寺）、薬師寺の八幡三神像が知られています。

＊＊＊＊＊緑色の仏像は成田山に奉安されています＊＊＊＊＊

この他に賓頭盧尊者像が一切経堂内にあります。

成田山で一番多くある仏像は大日如来で７体ある。この内常時見ることが出来るのは４体である。

不動明王は４体あり全て常時見ることが出来ます。　露仏は除く

どこに奉安されているか探してみよう。仏像は三尊型式で奉安されている事が多く見られます。

中心は「中尊」左右は「脇侍」これらを覚えていると又楽しめるでしょう。